

徳尾三郎さんを囲んで・・・

・・・副題「ラリーに明け暮れた青春」

日時 平成18年9月17日17時～

場所 小倉北区・中国料理・鐘楼

出席者(敬称略) OB会特別顧問・徳尾
坂田 (54) 高橋 (58) 山下
(H1) 徳永 (監督・ 4回生) 国吉
(主将・ 3回) 司会・編集担当嘉村 (33)

司会 本日は台風13号接近のなかお集まりいただき本当に有り難うございました。昨日までの参加予定は16名でした。お集まりいただいたのは7名ですが、内容の濃いお話が聞けると楽しみにしています。まず自己紹介からお願いいたします。

徳尾 私は27年戸畑高校から明治大学に進み、夢はブラジルで、何かやりたいと思っていたが、思いがけず父の後を継いで自動車修理工場を任されることになった。在学中はあまりモータースポーツ(MS)そのものに触れる機会はなかったが、戸畑に帰ってきて、ラリーに関する資料を集めたり、九工大の学生や地域の MS とか拘わるうち、以外に好成績をあげ、「俺には才能があるのか」などと思い、チームを立ち上げ、次第に ACK の中心に据わるようになった。九工大自動車部とのかかわりは当時の藤原教授が KIT (デイ・ナイト)の指導に当たって貰えないかとのお声があり、お手伝いをするようになった。私は在学中苦学をしたこともあって、九工大の学生で

乏しい資金で車をやりくりしているのを見ると何かと面倒をみていたようだ。

坂田 小倉高校から九工大に入り、卒業後は日本板硝子(舞鶴)に入社した。卒業後すぐには、ラリーなどで楽しむことは控えざるを得なかったが、一般社員がだめでも管理職はいいんじゃない?とばかり、ACK 関西支部を立ち上げたりして、MS から縁が切れない。徳尾語録に「ラリーをやる人間に悪いやつはいない」があるが、まさにそう思う経験を何度もした。舞鶴から四日市、フィリピン、など各地への転勤を繰返したが、一応家族は相模原にいる。

山下 大牟田出身で、三池高校から工大に入学した。入学までに浪人、入学後も5年掛けて卒業し、就職は住友金属鉦山。その後日本磁力選鉱でマグネシウムなどのインゴットを作る仕事をしている。自動車部に在籍しラリーにかかわったことは、他では得られない貴重な人生経験をした。今でもラリーとは深くかかわり、これまでの走行キロは4千をこえる。

高橋 大分・舞鶴高校から、九工大に入った。

54年入学したが、4年生のときに事情で中退した。そのご大分の会社に就職したが、ラリーとの付き合いはずっと続いている。

大分でのラリーにはオーガナイザーとして、いまでも現役。在学中からラリーの主催者は、福岡、戸畑、佐賀のクラブでも、開催地は大分が多かったから、ラリーのコースは熟知している。仕事をしながらのラリー参加はそれなりに周囲への配慮と努力が必要だった。私は、三郎さんの歳までラリーを続けるつもりだ。

国吉 広島城北高校から、工大に入った。現在ラリー車を購入、まだ成績は残せていないが頑張りたい。

坂田 国吉君の父親は私の3期上で、(国吉・51)写真部に所属しラリーには必ず参加していた。写真部員にはラリー好きが多かった。

徳永 実家は水間で出身は筑紫が丘高校です。昨年は部をまとめるのに精一杯でラリーではあまり戦績はない。それでもこれからラリーを続け、卒業後も拘っていききたい。

徳尾 徳永君は良く頑張っている。OB会の総会に参加したり、東京の講習にも出席してそのつど報告にきてくれている。工大の自動車部とも、永いお付き合いになったが、途中にはKITラリーをやめたいと言い出す幹部もいた。止めるなら複数の先輩に相談し、OKが出たら、やめれば良い、継続は力なり、と言ったら実際にはやめなかった。KITデーラリーには娘がまだ小学生の頃から参加していた。

司会 本日の座談会は主題が「ラリー」ですので自動車部に在籍していた頃のラリーに関する思い出話などお聞かせ下さい。

坂田 まだ新人の頃、先輩が徳尾さんを指して「自動車部にとって、特別な方」と言われたが、しばらくしてその意味が分かった。入部のきっかけは近くにTDKの会長がいて、変わった車が置いたあって、興味がわき、入学式のとき校門から直接自動車部に行った。

ラリーにかかわって一番印象に残ることは当時大学2,3年生(20歳前後)でも重要な責任を持たされ、大人扱いを受けたことだ。それと人の輪が広がった。卒業後関東では、ACKの坂田さんですねと言われてうれしかった。全九州Fの新人戦で榎本君(54・日本航空)が1位をとったが、私も4トン部門で1位でゴールしたのにスタート地点でラインを踏んでいたとかで入賞を逃した。

山下 ラリーに出たのは3年のときで、もっぱらラリーを作る方が得意で、同期の元木君とはいいコンビだった。留年まで一緒。(笑い)ラリーJでは藤間・小川・御領などが頑張っていた。当時の遠征旅行に一緒だった仲間とはいまだに連絡を取

り合っている。最近ナビで参加するのに減量を中心掛けている。(たしかに重量級)

高橋 車に興味があったわけではなく、2万円で免許が取れると言うキャッチフレーズに惹かれた。入部後、車庫に集まり連れて行かれたのはダートコース、そこではあまり厳しい印象もなく、むしろこんなんでいいのかと勘違いしたのがそもそもの間違い。先輩や同輩は結構、授業と部活を上手に両立していたのに、「ラリーって面白い」とのめり込んだ。免許を取ったら佐賀大・九大などラリーで明け暮れた。

坂田 ラリーに参加した中で、ライセンスを持った3年生が重し代わりに後部座席に乗っていた。

ラリーを作るのは、会社で1つのプロジェクトを立ち上げるくらい総合的な要素があってその後、色々な役に立った。

徳尾 そう、今考えるとラリーには会社経営などに必要な総ての要素がある。現地見、現地の了解取り付け、コース作り、関係官庁への届出や許可申請、参加者へPR、説明、チェックポイント、事故、救護班等の準備と人員の配置、セレモニーの段取り、あと片付け、看板等の撤収等々一口ではいえない。

さらに、私は「安全」にはすべての精力を費やした。「参加車が無事にゴールインできないならラリーは続けない。」が私の信念だった。工大生など将来のある若者に汚点を残したくない。そのためにはかなり辛口の指導もした。

山下 卒業後、会社でラリーで培われた技術、知識が非常に役立った。

徳尾 私は鑑別所の職員のような哲学を一時理想としていた。どんな過去や、経歴でも導き方で必ずまともな道へ導くことができる。ラリーには失敗やトラブルはつき物で、それをどう処理するかが大切、と指導してきた。

司会 昭和30年時代にA・B・C・D免許という部内の規定があったが今はどうなってますか。

山下 私たちのころもそれはあった。トラックなどでアルバイト行くためにロープの「特殊な締め方」ができると級があがった。

坂田 英語の教授の引越して手際がよく感謝され、何かお礼をというから「月曜の遅刻(ラリーは殆ど土日)を大目に…」といったら、取引を言い出され、月曜遅れて教室に入ると「今頃ノコノ来る学生に授業を受ける資格はない！」と大声で怒鳴られた。実はこれは演技で、教授は今まで一度も学生を怒鳴りつけたことはなかったそうだ。

私たちの頃は各学年ラリー好きがそろっていて、ひとりの退部者もなかった。

山下 ラリーは3ヶ月前から準備にかかり1週間前には試走するなど準備が大変で、不測の事態も良くおきた。あるとき書類をざっと目を通しただけで競技長に提出したら、確認が足りないで大目玉を食らった。後々までも書類のチェックのたび思い出す。

高橋 車をつぶしては三郎さんのところへ持っていったが、よくカミナリが落ちた。三郎さんのお兄さんがいて、フォローしてくれた。

徳永 はじめてナビ席に座ったときはとまどった。あと、ラリーの車は物が車の中を飛び回ることを知った。

司会 ここで、写真を撮って、それからラリーにまつわる面白い話をお聞かせ下さい。

坂田 おろしたての車(中古)を磨いていたら、F1の坂井さん(52)がちょっと付き合え、と言って途中で工具とブルーバードのミッションを積み込み、阿蘇の外輪山へ連れて行かれた。そこには国吉さんの車がトラップしていて坂井さんが手際よくミッションを乗せ換えた。

別な話で、Tさんの運転する先導車がゴール500m手前で5mの崖をダイビング(初経験)した。助手席の私は着地のショックでシフトレバーに座ってしまった。以後痔と縁が切れない。(笑い)

ゴール地点の人たちから今度のラリーの先導員は歩いてゴールするのかと言われた。

山下 ラリーの最中に猪をはねて、ゴールしたら血がついていて、説明に時間がかかった。

坂田 猪も豚と同じで、はねると「ブヒッ」と鳴く。首藤さんが急に支障ができて代理で出たとき、後輩がタイヤを貸してくれたり、手伝ってくれた。

高橋 入部してしばらくはハンドルのすえ切りをさせられた。すごくパワーのある部員の後は、タイヤがへって、パワートレにならなかった。

坂田 自動車部は、他のクラブと違って先輩が後輩の面倒を良く見てくれた。ラリーのとき坂井先輩がブレーキパッドを交換してくれた。雪が先輩の顔に降り積もるんが感動的だった。

徳尾 坂井君の思い出の一つに、張り切って出発したのに、ガスタンクのキャップが紛失して、ガス切れ寸前で「お前帰れ」と帰ったことがあった。

坂田 「みやび」のマスターは「自動車部は真面目で好きだがダンス部は好きになれん」と云っていた。小倉の魚町で交通遺児救援募金をした。はじめ声が出なかったがそのうちで出して、人前で声を出す練習になった。町内の人々が協力してくれた。

徳尾 メーカー以外に全国組織はなくACKの全国組織を目指して、山下・坂田君が頑張ってくれた。

坂田 10人のメンバーが集まらないので、家内を登録した。私の結婚も三郎さんに仲人をお願いした。

司会 お仲人をされた数は何組ですか。

徳尾 数えたことはないが20組前後かな。

坂田 チェックポイントで、ナビがカードを取るため、ドアを開けたら、車が崖っぷちに寄り過ぎていて、急に見えなくなった。崖下に落ちていた。

私がナビのとき、カードをもらって車に戻ったつもりが様子が違う。高価な機器が助手席についていた。わがチームの車は前に移動していた。

徳尾 自動車部OBは、みな優秀でみんなを集めて会社でも創ったら大会社になると思う。

年末にはみな工場に立ち寄ってくれる。子供たちは今でも「坂田のお兄ちゃん」と呼んでいる。

高橋 母校の車庫より三郎さんのところの方が寄りやすい。

坂田 母校の車庫に寄っても現役からは「なんだこのオッサン」という顔をされる。

徳尾 それは君たちが現役のとき先輩にそんな扱いをしていたからだよ。(笑い)

坂田 ラリーでなかなか三郎さんを越せなかったが、ケイさんがゴルフの素振りですら三郎さんに怪我をさせたと聞いて、「勝てる、よくやった。」と思った。

国吉 最近戦績があがっているので頑張りたい。

坂田 「ラリーに明け暮れた青春」というよりは「三郎さんに明け暮れた青春」だった。



徳尾さんを囲む座談会・06.9.17・小倉北区

ピックアップキャンペーン

自動車部に在部中、熱心に部活に励んだ仲間のおかげで、不本意ながら中退した部員も、立派な自動車部OBです。明専会の名簿にないため、OB会の名簿にもれていないこうした仲間をみんなでOB会に参加するよう勧めてください。事務局へのご連絡をお待ちします。